

授業科目名	生理学Ⅰ	担当教員	教授 紫藤 治 (他 日程表に記載)																
開講年次・学期	2年前期・後期	必修/選択	必修																
開講形態	講義・実習	時間数/単位数	61時間																
授業概要																			
<p>生理学は細胞、器官、個体レベルでの正常な生命現象を追及し、それらの“機能を理解する”学問である。したがって、生理学を習得するためには、さまざまな生命現象を記憶するのみならず、それらの発現（調節）メカニズムをじっくりと考え、理論的に理解することが求められる。このため、生理学の習得には講義時間以外にも自学自習に多くの時間が必要であることを知っておかねばならない。いうまでもなく生理学は医学の基本であり、その習得なしには疾患が起こる機序を理解できず、疾患の治療法に辿り着くことはできない。</p> <p>生理学Ⅰでは、植物および動物が、生命や種族の維持のため基本的に有している循環・呼吸器系などの数々のシステムを教示し、その調節メカニズムの基本を講義する。学生諸君には講義を基にさらに深く生理学の理解を深めることを期待している。</p>																			
G I O（一般目標）																			
<ol style="list-style-type: none"> 1、生理学の基本概念であるホメオスタシスを理解する。 2、本科目で講義される調節系を学び、それらの調節メカニズムを理解する。 3、それぞれの調節系の有機的関連を理解し、個体維持のメカニズムを包括的に学ぶ。 																			
S B O（行動目標）																			
<ol style="list-style-type: none"> 1、血圧の決定要因と調節メカニズムを説明できる。 2、呼吸調節メカニズムとガスの運搬様式を説明できる。 3、クリアランスの概念を用いて尿の生成メカニズムを説明できる。 4、消化・吸収のメカニズムを概説できる。 5、内分泌系による情報伝達メカニズムを説明できる。 6、女性性周期、生殖を概説できる。 																			
成績評価の方法																			
筆記試験により、習得度を判定し、成績評価する。																			
教科書・参考書・視聴覚・その他の教材																			
<p>講義の最初に紹介する。以下にそのうちの幾つかを示す。</p> <table border="0"> <tr> <td>小澤清司・福田康一郎 総編集</td> <td>標準生理学（第8版）</td> <td>2014年</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>岡野栄之・植村慶一 監訳</td> <td>オックスフォード生理学（原書4版）</td> <td>2016年</td> <td>丸善</td> </tr> <tr> <td>大地陸男 著</td> <td>生理学テキスト（第8版）</td> <td>2017年</td> <td>文光堂</td> </tr> <tr> <td>岡田泰伸 監訳</td> <td>ギャノン生理学（原書25版）</td> <td>2017年</td> <td>丸善</td> </tr> </table>				小澤清司・福田康一郎 総編集	標準生理学（第8版）	2014年	医学書院	岡野栄之・植村慶一 監訳	オックスフォード生理学（原書4版）	2016年	丸善	大地陸男 著	生理学テキスト（第8版）	2017年	文光堂	岡田泰伸 監訳	ギャノン生理学（原書25版）	2017年	丸善
小澤清司・福田康一郎 総編集	標準生理学（第8版）	2014年	医学書院																
岡野栄之・植村慶一 監訳	オックスフォード生理学（原書4版）	2016年	丸善																
大地陸男 著	生理学テキスト（第8版）	2017年	文光堂																
岡田泰伸 監訳	ギャノン生理学（原書25版）	2017年	丸善																
コア・カリとの関連																			
D 5 循環器系	D 6 呼吸器系	D 7 消化器系	D 8 腎・尿路系																
D 9 生殖機能	D 12 内分泌・栄養・代謝系	F 1 (2) 発熱																	